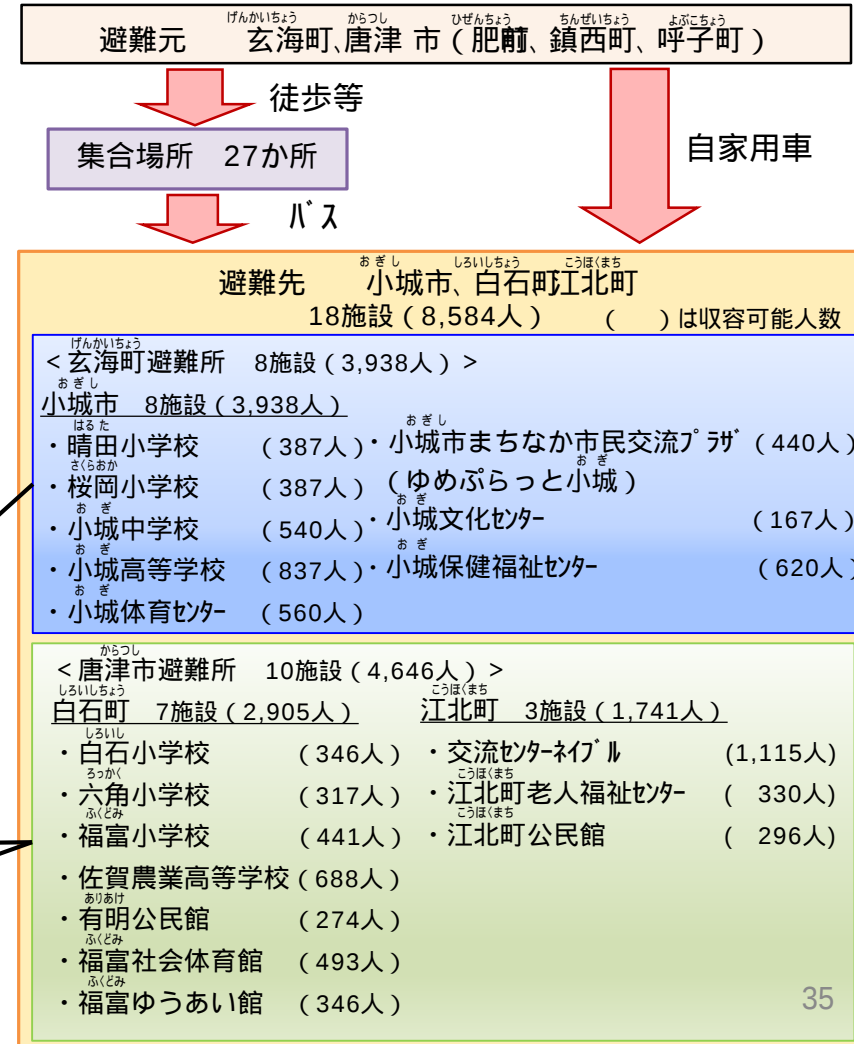


PAZ内の住民の避難先及び避難住民数

- 玄海町及び唐津市におけるPAZ内の住民については、自家用車で避難できる住民は、自家用車によりあらかじめ定められた避難所に避難。
- 自家用車で避難が困難な住民は、徒歩等で集合場所に集まり、佐賀県、玄海町、唐津市が配車した車両で、避難所へ避難。
- 避難先については、避難計画に関する住民説明会や訓練等を通じて対象となる住民に周知。



避難対象者数は、PAZ内住民の合計数から割り出した数字であり、若干の増減がある。

○ PAZ内の観光施設等における1日当たりの見込み人数は約3,000人、民間企業(従業員30人以上)は19社(約2,350人)存在。

PAZ内の観光施設の状況

市町名		施設	入場見込人数
げんかいちょう 玄海町		げんかい 玄海パーク	554人
		げんかい 玄海海上温泉パーク	228人
からつし 唐津市	ひぜんちょう 肥前町	—	—
	ちんぜいちょう 鎮西町	なごや 名護屋城跡、はと 波戸岬	2,216人
	よぶこちょう 呼子町	—	—
合 計 (4施設)			2,998人

入場見込人数については、パーク時(4～6月)における1日当たりの入場者数を基に算定

【出典】平成25年度佐賀県観光動態調査

PAZ内の民間企業(従業員30名以上)の状況

市町名		企業数	従業員数
げんかいちょう 玄海町		11社	1,916人
からつし 唐津市	ひぜんちょう 肥前町	—	—
	ちんぜいちょう 鎮西町	2社	117人
	よぶこちょう 呼子町	6社	313人
合 計 (19企業)			2,346人

民間企業に勤務する就労者は、通勤に使用する自家用車もしくはバスにより避難

【出典】平成26年経済センサス 基礎調査 確報集計 町丁・大字別集計

- げんかいちょう
- 玄海町において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約470人分、バス13台であり、PAZ内市町のバス会社が保有する車両により、必要車両台数を確保。
 - 車両及び運転手については、佐賀県バス・タクシー協会等の協力により、更に余裕を持った台数・人数を確保。
 - 各事業所の従業員の避難方法については各事業所単位で周知（施設敷地緊急事態で、自家用車により帰宅）。

げんかいちょう

< 玄海町における全面緊急事態で必要となる輸送能力 >

	想定対象人数 ¹	想定必要バス数 ²	備考
自家用車での避難ができない住民	433人	12台	【資料P35参照】
観光施設から避難する一時滞在者	40人	1台	1日当たりの観光施設の入場見込人数782人のうち、約95%が自家用車や観光バスで来場する想定で、その5%を想定対象人数として算入
合 計	473人	13台	

げんかいちょう

1 数字は現段階で玄海町が把握している暫定値

2 バスは1台あたり46人の乗車を想定

げんかいちょう

< 玄海町における全面緊急事態での輸送能力の確保 >

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 最大必要車両台数		13台	
(B) 車両確保台数		計13台以上	
確保先	PAZ内市町のバス会社が保有する車両	13台以上	PAZ内市町のバス会社が保有する車両156台のうち、施設敷地緊急事態で使用する32台の車両を除く、残りの124台の車両を使用

- 唐津市において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約820人分、バス23台であり、PAZ内市町のバス会社が保有する車両により、必要車両台数を確保。
- 車両及び運転手については、佐賀県バス・タクシー協会等の協力により、更に余裕を持った台数・人数を確保。
- 各事業所の従業員の避難方法については各事業所単位で周知（施設敷地緊急事態で、自家用車により帰宅）。

唐津市における全面緊急事態で必要となる輸送能力

	想定対象人数 ¹	想定必要バス数 ²	備考
自家用車での避難ができない住民	710人	20台	【資料P35参照】
観光施設から避難する一時滞在者	111人	3台	1日当たりの観光施設の入場見込人数2216人のうち、約95%が自家用車や観光バスで来場する想定で、その5%を想定対象人数として算入
合 計	821人	23台	

1 数字は現段階で唐津市が把握している暫定値
2 バスは、地域特性を踏まえ、3種類の乗車人数（大型バス 46名乗り、中型バス 35名乗り、小型バス 20名乗り）を想定

唐津市における全面緊急事態での輸送能力の確保

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 最大必要車両台数		23台	
(B) 車両確保台数		計23台以上	
確保先	PAZ内市町のバス会社が保有する車両	23台以上	PAZ内市町のバス会社が保有する車両156台のうち、施設敷地緊急事態で使用する32台の車両を除く、残りの124台の車両を使用

- げんかいちょう
げんかいちょう
おぎし
- 玄海町によるアンケート調査の結果、PAZ内の玄海町における自家用車で避難できない住民は約430人。
 - 自家用車で避難できない住民は、徒歩で各集合場所に集まり、佐賀県又は玄海町が配車した車両で、避難先である小城市へ避難。



唐津市における自家用車で避難できない住民の数及び 各集合場所への配車順路

- 唐津市によるアンケート調査の結果、PAZ内の唐津市における自家用車で避難できない住民は710人。
- 自家用車で避難できない住民は、徒歩等で各集合場所に集まり、佐賀県又は唐津市が配車した車両で、避難先である、白石町、江北町へ避難。

各集合場所への配車順路		人数	避難先
ルート1 (小型バス)	かべしま 旧加部島小学校	64人	しろいしちょう 白石町 ・ こうほくまち 江北町
ルート2 (大型バス)	かたしま 片島バス停前 よぶこ 旧呼子中学校 よこたけ 横竹公民館	133人	
ルート3 (大型バス)	なごや 名護屋大橋駐車場 ももやまてんかいち 桃山天下市駐車場 のちもと 野元出荷所	160人	
ルート4 (大型バス)	なごや 農協名護屋支所出荷所 ちんぜい 鎮西石室運動広場	90人	
ルート5 (中型バス)	きょうどまり 京泊	26人	
ルート6 (大型バス)	ちんぜい 鎮西漁協波戸支所 なごや 農協名護屋支所出荷所 のちもと 名護屋大橋駐車場	137人	
ルート7 (大型バス)	くし 串出荷所 ももやまてんかいち 桃山天下市駐車場 なごや 名護屋大橋駐車場	100人	
合 計		710人	

数字は現段階で唐津市が把握している暫定値



玄海町におけるPAZ内から避難先までの主な経路

〇 地域毎に予め避難経路を設定。自然災害等によりその避難経路が使用できない場合は、他の経路により避難を実施。

対象住民はPAZ
対象地区の人口から施設敷地緊急事態で避難する住民を除いた数



《避難経路の考え方》

- ・円滑な避難のため、可能な範囲で地域毎に分散して経路を設定
- ・住民が覚えやすく実行しやすい避難誘導計画となるよう、基本となる単一の避難経路をあらかじめ設定
- ・自然災害等により、道路の遮断や障害物による道路幅の減少等が想定又は確認できるときは、各道路管理者と協力し、代替避難路を速やかに確保。その上で、あらかじめ定めた避難計画にかかわらず、代替となる安全な避難経路において避難

唐津市肥前町におけるPAZ内から避難先までの主な経路

〇 地域毎に予め避難経路を設定。自然災害等によりその避難経路が使用できない場合は、他の経路により避難を実施。



からつし ひぜんちょう
唐津市肥前町
対象住民 147人

対象住民はPAZ対象地区の人口から施設敷地緊急事態で避難する住民を除いた数

《避難経路の考え方》

- ・円滑な避難のため、可能な範囲で地域毎に分散して経路を設定
- ・住民が覚えやすく実行しやすい避難誘導計画となるよう、基本となる単一の避難経路をあらかじめ設定
- ・自然災害等により、道路の遮断や障害物による道路幅の減少等が想定又は確認できるときは、各道路管理者と協力し、代替避難路を速やかに確保。その上で、あらかじめ定めた避難計画にかかわらず、代替となる安全な避難経路において避難

【代替経路（例）】

県道217号→国道204号→国道202号
→国道35号→県道36号

【基本経路】

県道217号→国道204号→県道50号
→国道202号→国道498号
→県道36号→国道207号

原子力発電所から5km内の唐津市肥前町のうち、住民が居住している地区のみをPAZに指定。PAZに指定していない5km内の一時滞在者に対しては唐津市が広報活動を行い、帰宅を促す。

【凡例】

- 基本経路
- 代替経路（例）
- 避難先市町所在地

避難先 白石町
ありあけ
(有明公民館)

唐津市鎮西町におけるPAZ内から避難先までの主な経路

〇 地域毎に予め避難経路を設定。自然災害等によりその避難経路が使用できない場合は、他の経路により避難を実施。

対象住民はPAZ対象地区の人口から施設敷地緊急事態で避難する住民を除いた数



唐津市呼子町におけるPAZ内から避難先までの主な経路

〇 地域毎に予め避難経路を設定。自然災害等によりその避難経路が使用できない場合は、他の経路により避難を実施。

